

# 渋川高等学校 学校評価一覧表① (令和4年度版)

(様式1)

羅 針 盤			方 策	第1回点検・評価			第2回点検・評価			
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策	
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①	自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は80%以上である。	・特別活動や学校行事の運営をできる限り生徒主体になるように計画し、生徒が活躍する場を設け、生徒の達成感向上を図る。	A	A	・好きと答えた生徒は90%以上おり、多くの生徒が肯定的である。少数の意見にも着目して改善点を見つけて、よりよい学校運営を目指していく。	A	A	・90%以上が好きと答えており、行事実施の規制が減って満足な活動ができた。引き続き学習環境や学校行事の整備、改善を進めていく。
		②	5分6限の授業に満足している生徒・保護者が80%以上である。	・十分な教材研究に基づきわかりやすい授業の実践をする。 ・チャイムスタート、エンドを実践し学習時間を確保する。 ・シラバスの活用と改善に努める。 ・思考力・判断力・表現力の能力向上を目標としてICT機器等を活用しながら授業改善をはかる。	A	A	・1・3年生は90%以上、2年生は85%を超えた。また、保護者の満足度も90%以上であり、5分授業が定着している。チャイムスタート・エンドを徹底し、授業内容もICTの活用を含めて充実させていく。	A	A	・55分授業実施3年目で、全学年で90%以上が満足と答えている。職員の研修を充実させて、ICT、1人1台PCの活用も進め、生徒が主体的に取り組める授業を目指していく。
		③	授業日を確保しながら学校の活性化を図っていることを肯定的に受け止めている生徒・保護者が80%以上である。	・授業時間を確保しながら、学校行事等とのバランスを考慮し、メリハリある生活の実現により生徒・保護者の満足度をさらに高める。	A	A	・感染防止対策を施しながら各行事を実施することができ、満足度が生徒も保護者も80%を上回った。今後も安全を確保して行事を実施し、満足度の高い活動を目指していく。	A	A	・学校行事は感染症防止対策を徹底しながら計画通り実施することができ、90%近くの生徒が満足している。今後もこれらの経験を活かして行事を活性化していく。
		④	類型選択や科目選択に満足している生徒が80%以上である。	・科目選択説明会を開催し、選択科目や類型選択の位置づけやしくみを分かりやすく説明し、面談などで個別に理解を深めさせる。またPTA総会等を通じて保護者の理解も深めていく。 ・本校に適した新教育課程の検討を行う。	A	A	・1、2年生は90%を超え、3年生は88%であった。生徒一人ひとりの興味・関心を生かせるような教育課程とキャリア教育の充実を目指していく。	A	A	・キャリア教育と入試情報の提供を充実させて、類型科目選択の満足度を維持する。学年、進路指導部と連携して計画的に進める。 ・令和5年度の教育課程について検討し改善していく。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑤	少人数・習熟度別授業を肯定的に受け止めている生徒が80%以上である。	・少人数、習熟度別クラス分けの時期や方法を工夫する。 ・学力に合った適切な授業を提供し、満足度を高める。	A	A	・満足度は90%を超えている。生徒の意見をしっかりと取り入れ、柔軟な編成方法を工夫していく。	A	A	全学年で満足度が90%を超えている。担当者間で進捗や難易度等さらに最適化を図っていききたい。
		⑥	授業や学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が80%以上である。	・教科会議や職員研修で授業アンケートの結果を分析し、生徒が主体的・自主的に取り組めるよう授業を改善する。	B	B	・1年生は72%で、学年を追う毎に増加し3年生は80%台である。授業の目標を明確に設定し、ICTの活用を含めて、個々の生徒の達成感を高めるよう授業改善をしていく。	B	B	1年生では満足度が77%であったが、2、3年生では80%を越え学年を追うごとに高くなっている。中学とのギャップを埋めるべく、実態に即した1年次当初の指導を考えていく必要がある。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦	家庭学習時間の平均が1、2年生は2時間以上、3年生は4時間以上である。	・家庭学習時間調査の結果を進路指導部、学年会で検討し、学習時間の向上に向けた課題や面談を通して生徒の学力の伸長を図る。その際に学年間、クラス間の指導に差異が出ない指導を心がける。	C	B	・全学年とも目標の学習時間に20分程度足りていない。3年生は進路目標が明確化してきた時期なので、毎回の模試等を目標にして学習時間を増やしていきたい。1、2年生については進路目標の早期決定を促すとともに、部活動後の学習室の利用を呼びかけていきたい。	A	A	各学年とも目標時間を確保することができた。二者面談や各ホームルームでの指導により、生徒の意識が高まった者と思われる。学習室の利用も増えている。
		⑧	全国模試における平均偏差値(型別・科目別)が50以上である。	・模試結果の分析を教科担当者だけでなく、教科全体・学年全体で検討する機会を設ける。出てきた課題に対して進路指導部と学年、教科が連携して必要に応じた策をとる。	B	B	・7月進研模試では1、2年生が偏差値50以上を達成したが、3年生では目標を達成できていない。1年生は英語がやや弱い。2年生は各教科のバランスが良く上位層も暑く今後に期待が持てる。3年生は理系が低迷していたが、このところ上昇傾向にある。学習時間を増やしつつ、各教科で弱点克服に力を入れていきたい。	B	B	1年及び2年文系は1月の進研模試で偏差値50を越えることができたが、2年理系では1.1ポイント届かなかった。3年生は10月の進研模試では文理とも50を下回ってしまった。理系教科の基本を身につけることと、3年生においては今後の追い込みが必要である。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑨	生徒の動向に関する学年会議や分掌会議を週1回以上行い、情報の共有を図る。	・時間割に会議の時間を組み込み、情報交換を密に行う。 ・学年と分掌の情報交換を密にする。	A	A	・時間割の中に組み込んで定期的実施している。生徒情報共有シートを活用し、学年や分掌内の生徒情報共有はできている。職員会議でも共有を図っている。	A	A	・時間割の中に組み込んで定期的実施している。生徒情報共有シートを活用し、学年や分掌内の生徒情報共有はできている。職員会議でも共有を図っている。
		⑩	学級担任による個人面談を年に3回以上実施する。	・生徒との面談時期を設定し、計画的な相談活動を行う。 ・日常的な声かけを継続する。	A	A	・日常的な積極的な声かけに加え、二者面談を学期始めに年間3回実施している。また年に1度三者面談を行い、3年生はさらに12月にも三者面談を実施する。その他、生徒の状況に合わせて適宜面談を行う。	A	A	・日常的な積極的な声かけに加え、二者面談を学期始めに年間3回実施している。また年に1度三者面談を行い、3年生はさらに12月にも三者面談を実施する。その他、生徒の状況に合わせて適宜面談を行う。
	⑪	学校はいじめの防止や早期発見に向けた取り組みを積極的にを行うとともに、相談窓口などをしっかり伝えていると考えている生徒・保護者が80%以上である。	・アンケートを実施し、生徒の悩みに早期対応できるようにする。 ・生徒会を中心にいじめ防止月間など利用して、学校全体でいじめ防止に向けた取り組みを行う。 ・教育相談便りやリーフレットを定期的に発行、配布する。	A	A	・各学期始めに生活・相談アンケートを行い、生徒の心身や人間関係の悩みを把握し、状況に合わせて対応している。 ・生徒会でいじめ防止月間を設定し、いじめを許さない空気を醸成している。	A	A	・生活・相談アンケートの結果、生徒83.4%、保護者94.0%が、積極的に行い相談窓口などをしっかり伝えていると回答した。 ・生徒からの情報収集およびいじめを許さない雰囲気醸成に取り組んでいる。	

Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑫ 学校行事や部活動に積極的に参加していると考えている生徒(子供が積極的に参加していると考えている保護者)が80%以上である。	・学校行事に向けた準備や部活動の様子を生徒会新聞等で紹介するなど、計画的かつ積極的に学校行事や部活動を実施・運営し、生徒が学校生活に前向きに取り組める体制、環境を構築する。	A	A	・教育相談便りや相談窓口リーフレットを配付し相談しやすい態勢を整えている。	A	A	・学校行事や部活動に対して、生徒88.2%、保護者91.8%が積極的に参加していると回答した。 ・日常的な部活動、学校行事を実施・運営し、その結果などについて生徒会新聞を発行して活発に活動することができた。
		⑬ 1日の平均遅刻者数は、全校生徒の1%以下である。	・家庭との連絡を密にし、欠席・遅刻・早退の防止に努め、基本的な生活習慣の確立を図る。特に遅刻指導に重点を置き、時間厳守の習慣化に努める。	A	A	・1学期の1日平均遅刻者は4.9人と昨年度よりも増えてしまったが、在籍数比では0.8%に止まっている。家庭の協力を得ながら、生活習慣向上を目指したい。	B	B	・1日の平均遅刻者数は7.3人、在籍比は1.2%であった。家庭の協力を得ながら、生活習慣向上に向けて指導していきたい。
		⑭ 交通事故の発生率が全校生徒の1%以下である。	・SHRなどを通じて日頃から安全意識を育てる指導を行い、交通ルールの遵守について徹底するとともに、交通法規について学ぶ機会を設ける。 ・交通安全教室やマナーアップ運動などの機会を利用して、交通マナーの向上に努めさせる。	B	A	・交通事故件数は7件(8月末現在)であり、在籍比1.1%である。HRその他で日常的に交通状況を観察・指導してより一層安全意識を向上させていきたい。 ・生徒による交通安全教室や交通安全通信、ヘルメット着用指導などを通して交通マナー向上に取り組んでいる。	B	B	・年間の交通事故発生件数(1月現在)は14件で、在籍比は2.4%であった。 ・生徒による交通安全通信の発行を通して、交通ルール認知や安全意識の向上、ヘルメット着用に向けて啓発活動を行っている。
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑮ 安心して学校生活を送っていると考えている生徒・保護者が90%以上である。	・学年運営、学級運営において生徒一人一人との関わりを密にするよう配慮する。 ・規律正しい学校生活を送れるよう指導するとともに、教育相談やスクールカウンセラーの活用方法を周知するなど、生徒が相談しやすい環境を整える。	A	A	・「安心して学校生活を送っている」との回答が生徒・保護者とも90%を超えた。この状況を維持できるような情報共有を密にしていきたい。 ・スクールカウンセラーや各学年所属の教育相談係、外部組織の相談窓口などを周知するとともに、家庭と連携して連絡を取り合って相談しやすい環境を作っている。	A	A	・「安心して学校生活を送っている」との回答が生徒93.7%、保護者95.4%であった。 ・学級活動・授業・部活動・学校行事などに際して生徒との関わりを密にし、生徒の状態把握に努めている。 ・学級担任などによる面談やスクールカウンセラー・外部相談窓口の紹介などを通じて、生徒が悩みを相談し解決が図られるよう努力している。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑯ 進路に関わる資料・教材を有効に活用している生徒・保護者が80%以上である。	・進路に関わるデータ、資料や教材を、生徒が有効に活用できるよう指導する。また、保護者にも進路資料等が届くよう配慮する。	C	B	・有効活用できている生徒が、3年生では約75%、1、2年生では約60%である。3年生になると進路情報を活用する生徒が増えるので、1、2年生のうちから進路情報の意義や活用などを丁寧に説明していきたい。	B	C	活用できているが生徒保護者とも1、2年生で約6割、3年生で約8割という結果であった。配布物の精選や、利用法の詳しい説明などを行い利用率を上げていきたい。
		⑰ 3年間の進路指導計画に基づき、有効に補習や学習室等を活用できている生徒が80%以上である。	・生徒の学力に即した補習が実施されているか学期単位で確認・修正していく。また、学習室の環境整備に努める。	B	B	・学年別では1年生が71%、2年生が66%、3年生が74%であったが、今年は1年生の活用率が例年より高い。3年生はこれから受験に向け活用率が上昇していくと思われる。土曜補習の参加率は90%を越えている。2年生は修学旅行後の学習への切り替えを意識させたい。	B	C	活用できていると答えた生徒が1、2年生で7割を切り、3年生でようやく7割を超えるという結果であった。土曜補習等の出席率は90%を越えている。学習室利用は1年生の利用が増えてきている。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑱ 3年間を見通したキャリア教育プログラムへの肯定的な参加が80%以上である。 ⑲ 進路実現に向けて取り組んでいる生徒が95%以上である。	・総合的な学習・探究の時間を活用した本校のキャリア教育「iProgram」のスムーズな運営に努める。LHRにおいても適切な資料を作成し、生徒の進路選択をサポートする。 ・授業、家庭学習の充実とキャリア教育・進路学習をその補完としながら、目標を明確にし、その実現に全力を注がせる。	A	A	・肯定的な参加は各学年とも80%を越えている。3年生では90%を越えているのに対し、1、2年生は83%程度になっているが、2学期から本格的にi-Programの活動が増えるので、肯定的な参加がさらに増えてくることが予想される。 ・3年生が94%、1、2年生は約80%という結果であった。3年生はほぼ目標に近い結果であったが、1、2年生はまだ目標とは開きがあるのが現状である。2学期の様々な進路行事や二者面談などを通じて、生徒の進路意識を高め、早期に設定をさせて学習への意欲を高めたい。	A	A	肯定的な参加が、1、2年生で80%以上、3年生では90%以上であった。キャリア教育が進路選択に何らかのプラスの影響があったと考えられる。行事に同窓生の協力を得るなど、改善を図れたところもあった。 3年生では97%であったが、1年生が83%、2年生が81%であった。2年生では3学期を3年0学期と捉え、始業式を実施した。早期に受験を意識する取り組みを1年生でも行っていきたい。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑳ Webページを月1回以上更新する。	・保護者・生徒に有用で適切な情報を適宜発信するよう努力する。	A	A	・古い情報の更新を徹底して行っている。保護者や中学生に向けて、学校の様子が伝わりやすいようページを工夫していく。	A	A	・学年通信の発行や、学校行事、進路情報等を随時掲載した。画像や動画の掲載も充実させていきたい。
		㉑ 学年保護者会等に積極的に参加している保護者が60%以上である。	・コロナ感染症に注意しながらPTA総会や学年別進路講演会を開催し、保護者への情報発信の場とする。	B	B	・PTA総会での保護者の講演会・懇談会等への参加率は約60%であった。また、3学年の進路講演会では50%近い保護者の参加があった。目標の数値を十分達成したとはいえませんが、少しずつ保護者の参加する行事が増えてきた点は良かった。2学期以降も1、2年生の進路講演会があるので、保護者の参加をさらに呼びかけていきたい。	B	B	進路講演会への保護者の出席は1年生で46%、2年生で41%であった。目標数値を達成したとはいえませんが、昨年はリモートで実施した学年もあったので、少しは前進したともいえる。講演会の内容も保護者のニーズにさらに添えるものにしていきたい。

		㉒ 可能な範囲で公開授業を実施する。	・学年別進路講演会と連携し、可能であれば授業公開をすすめる。また、中学生やその保護者向けの授業公開も同様とする。	C	C	・以前は各学年で行っている進路講演会の際に授業公開を実施していたが、コロナの影響で今年も実施できていない。状況を見ながら再開できるように努力していきたい。	C	C	以前は各学年の進路講演会の際に公開授業を実施していたが、今年もコロナの影響でできなかった。来年度は何らかの形で復活させていきたい。
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	㉓学習支援ソフトウェアを週1回以上利用している	・授業の進行と並行して、生徒の理解を深め、学力を定着させるような学習支援ソフトの課題設定等を行う。	A	A	・週1回以上利用している生徒は、初めて90%を超えた。自主的な学習を進められるよう、さらに定着するよう工夫していく。	A	A	・週1回以上利用している生徒は、90%以上を維持している。自主的な取り組みがさらに定着するよう工夫していく。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉔ICTを活用した通知やアンケートに、生徒・保護者の70%以上が満足している。	・ICTを積極的に活用するために、担当者を中心として全職員で推進していく。	A	A	・80%以上が満足であると回答している。今後も学校全体と各学年で情報発信やアンケートの活用を進めていく。	A	A	・90%近くの保護者が満足であると回答している。今後もきめ細やかに情報発信を行い、アンケートの活用を進めていく。